基本構想

〈 計画策定の趣旨・目的 〉

時代の変化やさまざまなまちづくりの課題に的確に対応し、市民・事業者・行政など、市のすべての構成主体が手を携え、よりよいまちづくりを行っていくためには、目指すべきビジョンを共有することが大切です。
宇都宮市が、これからも自主性を保ちながら、持続的に発展していけるよう、平成20年3月、これからのまちづくりの指針として、新しい総合計画を策定しました。

これからの時代の変化

これからのまちづくりを取り巻く時代の変化として、次の5つをとらえました。

- 少子・超高齢社会、人口減少の時代
- 地球環境問題の深刻化の時代
- ボーダーレス*1 社会の進展の時代
- 人間回帰の時代*2
- 分権型社会の進展の時代

これからのまちづくりの重点課題

宇都宮市の現状等を踏まえたこれからのまちづくりの重点課題を、次のとおり設定しました。

1. 子育て支援の充実
2. 高齢者の生活の質の向上
3. 次代を築く人材の育成
4. 安全で安心な生活環境の創出
5. 魅力ある拠点の創造
6. 総合的な交通体系の確立
7. 環境調和型社会の構築
8. 都市の個性づくりと発信
9. 産業力の強化
10. 地域が主体となったまちづくり

まちづくりの戦略的ターゲット（15年後のまちの状態）

10の重点課題を踏まえ、15年後の「まちの状態」の目標を、次のとおり設定しました。

輝く希望と笑顔にあふれた	みんなが幸せに暮らせるまち
独自の存在感と風格を備えた	みんなに選ばれるまち
まちづくりの仕組みが整い みんなでまちをつくる活力にあふれた	持続的に発展できるまち

都市空間の姿

市民活動や社会経済活動の土台となる都市の「つくり」の目標を、次のとおり設定しました。

ネットワーク型コンパクトシティ*3（連携・集約型都市）

〈 目標年次 〉

平成34（2022）年

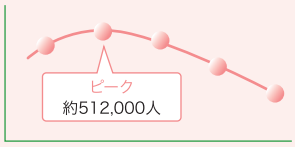
新たな成熟都市へ
うつのみや V-PLAN（ブイ プラン）

“V-Plan（ブイ プラン）”とは

この計画には「新たな成熟都市へ うつのみや V-Plan」という愛称がついています。
「新たな成熟都市へ」は、これからの時代の移り変わりの中でも、さまざまな価値観を認め合い、高め合いながら、本当の魅力や豊かさを持続・向上していける「輝き続ける都市」を目指していくことを表現しています。
また、「V-Plan」は、第5次総合計画の「V」（ローマ数字）と、これからのまちづくりのキーワードとなる5つの「V（ブイ）」を表しています。

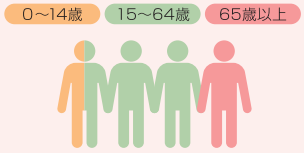
Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ
バイタリティ	バラエティ	バリュー	ビビッドネス	ビクトリー
Vitality	Variety	Value	Vividness	Victory
活力・元気・持続力	多様性	価 値	鮮やかさ・活発さ	勝利・克服

総人口（見通し）



平成27（2015）年にピークを迎え
その後、人口減少の局面へ

年齢構成別人口（見通し）



平成34（2022）年には
ほぼ4人に1人が高齢者となる社会へ

将来のうつのみや像（都市像）

市民・事業者・行政など、本市のすべての構成主体が、パートナーシップによってその実現を目指す宇都宮市の姿を、次のとおり位置付けました。

くらしいきいき　まちキラキラ　つながる人★夢のみや　うつのみや

将来のうつのみや像の実現に向けて

本市のすべての構成主体が、力を合わせてまちづくりに取り組むうえでの、それぞれの「務め」を定めました。

市民としての務め	地方自治の主役であるという認識のもと、自助・互助・共助の精神に基づき行動する。
事業者としての務め	本市の構成主体であるという認識のもと、積極的な社会貢献活動を通して、地域社会との信頼関係や協力関係を深める。
行政としての務め	市民の負託を受けた公共の担い手として、「将来のうつのみや像」の実現に向け、市政運営に取り組む。 → 多様な主体の意思や活動に基づく自治の実践、自治能力のさらなる向上

*1 ボーダーレス ……国や地域などの境界がない、あるいは薄れた状態をいう。
*2 人間回帰の時代 …… 「ひと」を中心に据えた価値観が、これからの暮らしやまちづくりの基調となっていくことを表した。
*3 コンパクトシティ…… 市街地の無秩序な拡大を図るのではなく、既存の都市の中心部などを有効に活用し、そこに多様な機能を集積させた都市の形態、あるいはその構築を目指す考え方。持続可能性のある都市のあり方として注目されている。基本的な特性として、土地の高度利用、都市機能の複合化、自動車依存が少ないことなどがあげられる。